

マネージメント情報

※ アメリカ・カナダ研修報告 Vol.2

< 6/2...アルバータ大学 >

6/1にウイスコンシンからカナダのエドモントンに移動。アルバータ大学にはみなさん乳牛の栄養でお馴染みの大場先生がホテルで合流。大場先生は10代の頃中春別の高橋真悟さんのお母さんの実家の農場で実習の経験があり、この経験が現在の仕事をするようになったきっかけだったとの事です。

大場先生は今年の9月から一年間酪農学園大学に逆留学の形で仕事をされる事になっていますので、身近にいろいろな形で情報を提供していただけたと思います。

大場先生は一週間前にカナダ政府の仕事(カノーラミールの売り込み)で中国から帰ってきたばかりで、穀物輸出国は日本ではなく中国をターゲットにしている現実をあらためて実感しました。

6/2にアルバータ大学でDr. Collazo Marcosに定時授精のプロトコルを中心に講義を受けました。アルバータ大学の付属農場では全ての授精は定時授精を行っているということでした。定期的に妊娠鑑定を行っていますが、その間に自然発情があっても無視して、次回の妊娠鑑定の時に定時授精のプロトコルにしたがって処置を始めます。理由は仕事の簡略化で、曜日毎に仕事を決めていて繁殖管理も同じだということです。付属農場は100頭ほどの規模でしたが、この頭数でも繁殖管理は機械的に行われていました。

Presynch/Ovsynch
- 36 días -

LUN	MAR	MIER	JUE	VIE	SAB	DOM
		PGF				
		PGF				
GnRH						
PGF		GnRH	IATF			

2011/06/03

Presynch/Ovsynch (G66)
- 18 días -

LUN	MAR	MIER	JUE	VIE	SAB	DOM
PGF		GnRH				
	GnRH					
	PGF		GnRH	IATF		

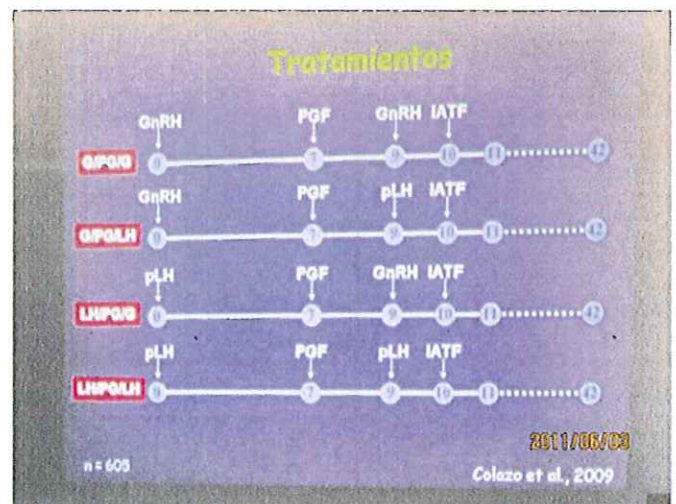
2011/06/03

スライドはスペイン語ですが、曜日ごとの処置ということはわかると思います。

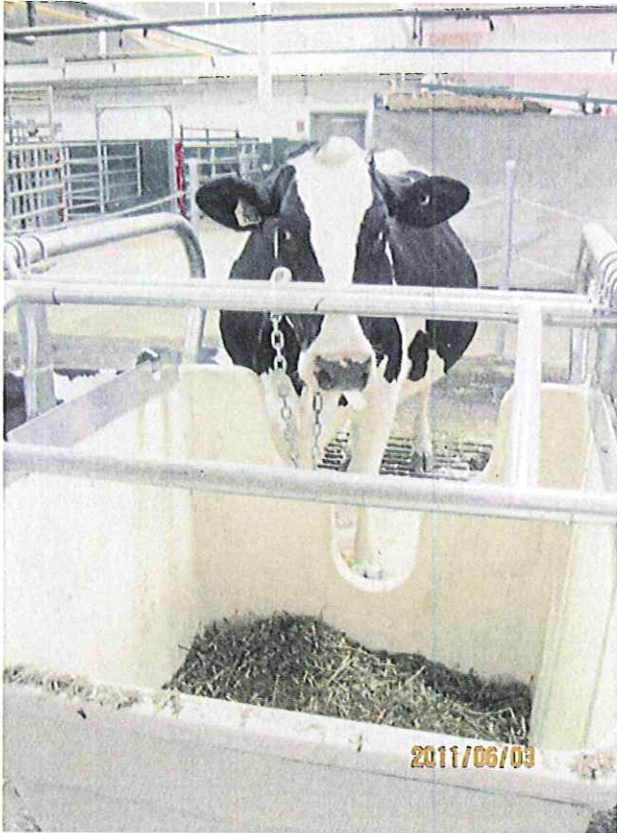
受精卵の採卵でも定時採卵(4週間間隔)という方法があり、現在2頭の牛で行っています。賛否はあるでしょうがこれからの繁殖管理は自然発情を発見するということではなく、このように定時授精で機械的に行われるようになっていくのかもしれない。

それ程発情発見が難しくなっているのか？
製薬会社の戦略なのか？

でも、曜日で仕事が決まるということは人手の少ない現実を考えると一つの方法であることは間違い無いと思います。



アルバータ大学附属農場の写真です。
様々な試験が行われているのですが、一頭一頭毎に正確に乾物摂取量が管理できるようになっていました。



※500,000km超えました

私の愛車ランクル 80 が 7/1 にとうとう
500,000km に到達しました。
平成7年 8 月から乗り始めて苦節?16 年
本当によく頑張ってくれました。
その間、鹿との衝突と側溝に飛び込んだ
事が一度ずつありましたが、それでも
大事に至らずに現在 8 回目の車検をと
っているところです。
佐竹さんにこの話をしたら得意のどや顔
で「とっくに超えていますよ!!!」とのこと。
いつの間にか先を越されていました。
これから二人で 600,000km 越えを目指
します。

